

日々の祈りと感謝 作品に

彫刻家 楠元 香代子さん(63)＝熊本市

慈愛に満ちた表情を浮かべる女神像。どっしりとした体つきで、何事も受け入れるような懐の深さを感じさせる。作品に込めたのは、「日々のささやかな祈りと感謝の思い」。創作に打ち込む純粋な姿勢が伝わる。

鹿児島県出身。鹿児島大に進み、文化勲章を受章した彫刻家中村晋也さん（崇城大名誉学長）に師事。「（彫刻に使う）粘土には神が宿る」「作る時には余計なことを考えるな」と、心構えからたたき込まれた。

膝を抱え込んだり、いすにもたれかかりたりする裸婦像など、内面の繊細な心情まで感じさせる作品を次々に打ち出した。日展会員にもなり、「どこから見ても矛盾し

ないような具象作品を作り続けてきた」と振り返る。

転機となったのは、崇城大に赴任した2000年。スリランカを訪れた際、断崖絶壁に彫り込まれた巨大な石仏像に出合った。周囲と一体化した石仏の顔はおおらかで、神々しく、人を包み込むような雰囲気があった。

「こんな作品を作りたい」。同国の国立大の客員教授を1年間務め、仏教美術を研究。岩から出てくる女神像や、岩と同化し、手を合わせる人物像など、独創性が増した。「粘土に生命感を与えるのは難しい。作品には今の自分が表れる。ハッとする瞬間を大切にしたい」

楠元さんの県内初となる個展は、熊本市中央区の崇城大ギャラリーで28日まで。過去30年で制作した約50点を展示する。

（中原功一朗）



県内で初の個展を開いている彫刻家の楠元香代子さん＝熊本市中央区